

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777(通話料無料)
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 <a href="http://www.shizuki.co.jp/">http://www.shizuki.co.jp/</a> ※事故その他のやむをえない事由により、電子公告を行うことができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部 大阪証券取引所 市場第2部

【ご注意】

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月(シヅキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州（現在の山口県）の出身であること、また幕末長州藩の一代家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城（指月城）から名をお借りしたのが命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号  
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807



証券コード 6994  
東証二部・大証二部

第84期 第2四半期報告書

# 株主通信

平成23年4月1日～平成23年9月30日

## 特集：シヅキの強み

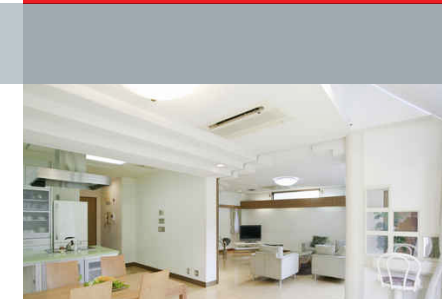
不況に左右されにくい秘密に迫る

「安定」をベースに「成長」を迫るシヅキの物づくり

## トピックス：シヅキの強さを支える工場

#03 常にお客様の存在を意識する生産方式を導入

本社の敷地内にある重要拠点「西宮工場」



株式会社 指月電機製作所

<http://www.shizuki.co.jp/>



代表執行役社長  
梶川 泰彦

**震災の影響、そして復興のためにシツキができること**

東日本大震災の発生から半年以上が経過しました。上期を振り返るとやはり震災の影響は大きく、岡山指月の自動車産業向け商品が落ち込みました。現在、HEV、EVを筆頭に震災前の9割ほどに回復しつつありますが、まだまだ予断を許さない状況が続いています。一方で九州指月の電鉄車両用コンデンサや本社の西宮工場で生産している業務用アクティブフィルタが好調でした。そのため岡山指月の人員を九州指月と西宮工場に配置転換し、受注の増減に対応しました。改めてグループ内の連携の大切さを実感した次第です。

また、震災後は被災した受変電用コンデンサのメンテナンス依頼が増えました。海水に浸かった機器を何とか使えるようにして欲しいというようなご依頼にも指月テクノサービスを通じて誠実に対応していきました。メンテナンス案件は売上の的には厳しいですが、これからつながる営業活動の一環として、また何よりも私たちにできる震災復興への貢献であるとの思いで取り組んでいます。その他、震災関連では、仮設住宅のエアコンに使われるコンデンサの需要が高まりました。今後の本格的な復興の動きにも、グループを挙げて全力を尽くす所存です。

**地道な努力が成果につながり、タイ指月好調**

海外ではアメリカンシツキがアメリカ経済の不調から厳しい

状況が続いていますが、一方でタイ指月が好調でした。生産する品種を増やしたことにより幅広いマーケットに商品を提供できる体制が整いました。また、タイ指月を通じて、インフラの整備が急速に進むインドネシアやその他東南アジアの国々にも商品を輸出しています。日本で販売している商品をそのまま再現するのではなく、現地のニーズに合わせてうえて日本法人ならではの高い品質のものを生産する。数年前からの地道な試みが、今、実を結んでいます。10月の水害で現地の日系企業は大きな被害を受けましたが、当社は引き続き、タイ指月に期待を寄せています。

**断固たる決意のもと、下期のテーマを「飛躍」に**

このような状況下、下期のテーマを「飛躍」といたしました。厳しい時こそ停滞してはいけません。当社は先述の通り、例え一つのセグメントの商品が減産しても別のセグメントの商品の増産で補うことができます。これは目の前の成長分野のみを追いかけず、多品種少量を貫き、常に幅広い分野に商品を送り届けてきた成果です。

今回の株主通信では、特集で不況に左右されにくいシツキのモノづくりについて掘り下げますが、ぜひご一読のうえ、「飛躍」の根拠、その一端に触れていただければと思います。株主の皆様には今後もご支援のほどお願い申し上げます。

**シツキが目指す2013年度のあるべき姿**

全売上高	総資産経常利益率(ROA)	営業利益	一株当たり利益(EPS)
<b>270</b> 億円	<b>14%</b>	<b>32</b> 億円	<b>61</b> 円

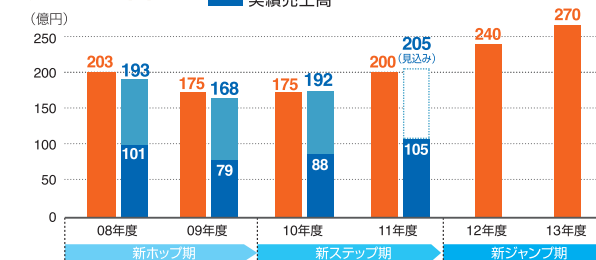
中長期計画

**AIM2013**

**AIM2013を目指した経営戦略**

- ▶ 対応型から提案・ソリューション型企业への革新
- ▶ 重点事業領域(ドメイン)の拡大
- ▶ 事業活動の最適化(ITSの展開)
- ▶ 共育と訓練(指月PPVSの展開)
- ▶ 固有技術のプロ集団化(研究・開発の環境整備)

**売上高目標**



**経営指標**

項目	新ホップ期		新ステップ期		新ジャンプ期	
	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	
営業利益 (億円)	13.0	15.9	17.2	24.0	32.4	
総資産経常利益率(ROA) (%)	7.2	8.1	8.7	12.0	14.1	
一株当たり利益(EPS) (円)	32.8	33.9	37.3	50.0	60.9	
	実績		見込み		計画	

**多顧客、多用途、多市場の姿勢を貫き、  
停滞することなく更なる成長を目指す。**



不況に左右されにくい秘密に迫る

# 「安定」をベースに「成長」を追う シツキの物づくり

シツキは「不況に強い会社」だとよく言われます。実際、リーマンショックの時も同業他社が軒並み赤字となる中、シツキは黒字を保つことができました。「多品種少量」はシツキの物づくりを象徴する言葉ですが、同業他社とは一体何が違うのか、ここではその秘密に迫ります。

「選択と集中」より  
「やり続けることの大切さ」を  
重視する企業

同じ「物づくり」でも、メーカー側の都合で標準の商品をお客さまに押し付けるものと、お客さま仕様でお客さまが望まれる形、スペックで商品を提供するものでは全く異なります。私たちシツキの場合はもちろん後者。しかも一つ分野に限らず、自動車、電鉄、家電製品など幅広い分野に商品を供給しているのが特長です。

また、私たちは新幹線をはじめHEVやEV、IHクッキングヒーターなどいわゆる最新の商品に使われるコンデンサ類から、派手さはないけれど社会のインフラに欠かすことができない、「電気設備」と呼ばれるものまで生産しています。実は、これこそが最も大きな違い。今、「選択と集中」という言葉のもと下火になっている分野を切り捨て、成長分野にのみ注力する企業が多い中、私たちは「やり続けることの大切さ」を胸に、継続して求められる商品を大切にしているのです。

## 安定分野



## 成長分野



## 「立ち技」ではなく「寝技」で勝負 できる存在であり続ける

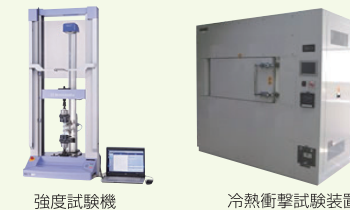
成長分野のみを追い求めることは容易です。しかし、成長分野には波があり、いずれ大きく落ち込む時が訪れます。その時に安定した土台がなければ、企業の存続にも関わることになります。今回の東日本大震災でもシツキは「成長分野」の自動車事業の需要が落ち込んだ分を「安定分野」で補うことができました。また「安定分野」が

あるからこそ、それをベースに「成長分野」に打って出られるのです。

一瞬の勝負で決まる「立ち技」では大手メーカーに太刀打ちできませんが、じっくり攻め込む「寝技」でなら負けません。これからもこのスタイルを貫き、地道に、けれども粘り強いシツキであり続けます。

これからの「成長分野」を切り拓く存在。  
本社R&Dセンター(岡山)本格稼働

最新の評価・検証設備や分析・解析設備を備えたシツキの開発拠点「R&Dセンター」が本格稼働。「R&Dセンター」稼働後、最初の開発品となる電解代替用コンデンサにも量産のオーダーが入りました。この「R&Dセンター」は岡山県と総社市の大規模工場等立地促進補助金の適用第1号で、去る10月には知事も視察にいられました。「安定分野」の物づくりを突き詰める一方、「R&Dセンター」の環境を活かし、「成長分野」も切り拓いていきます。



## トピックス

指月の強さを支える工場

### #03 常にお客様の存在を意識する生産方式を導入 本社の敷地内にある重要拠点 「西宮工場」

#### シツキの多品種少量の物づくりを常にリード

西宮工場は、普段大々的に取り上げられることはありませんが、実はシツキの物づくりを象徴する存在であるといっても過言ではありません。その理由をご説明します。

西宮工場で生産している商品は大型の電力機器商品が多いのですが、通常、大型商品を組立てる際は、商品を中心として担当者が集まり各作業を行うのが大半です。しかし、西宮工場では、工程の進捗が一目でわかる様に、組立商品を移動台車に載せ、組立工程ごとに流しています。

この方法なら各商品が、今どの工程にあるのか、いつ仕上がるのかを一目で把握でき、工程ごとの無駄も見つけやすいのです。

もう一つの特長は、生産している商品が少品種に限られ



商品によっては受電設備の一部として組立ててお客様のもとへ出荷します。西宮工場・検査棟で出荷検査が行われます。大きく掲げられている看板は「お客様の“仕様書”での検査」ならぬ「お客様の“使用状態”での検査」という文字。これはお客様が実際に使われる状態を出来る限り作り、実使用状態で検査を行うという考え方です。つまりお客様が実際に使われる状態をしっかりと掴んで実践しようとする品質保証体制なのです。



ていない点です。一見同じに見える商品も、お客様のご要望にあわせてカスタマイズしているため、それぞれ微妙に異なります。シツキの特長である、多くのお客様からの、多くのご要求にお応えする生産対応で、刻々と変化する市場に機敏に適應しています。

#### 長きにわたって社会に必要とされる商品を生産

西宮工場が生産している電力機器商品の主な用途は、電気障害の除去や、力率の改善であり、これらの商品は電気が存在する限り必要とされます。今回の株主通信の特集というところの「安定」の分野に当てはまるものです。要するにシツキの経営基盤を支えるものとなります。社会インフラで使われている目立たない商品ではありますが、売上高ではグループ全体の約1/5を占めています。小さくてもキラリと光る存在。西宮工場はこれからもシツキを支え続けます。

商品によっては受電設備の一部として組立ててお客様のもとへ出荷します。西宮工場・検査棟で出荷検査が行われます。大きく掲げられている看板は「お客様の“仕様書”での検査」ならぬ「お客様の“使用状態”での検査」という文字。これはお客様が実際に使われる状態を出来る限り作り、実使用状態で検査を行うという考え方です。つまりお客様が実際に使われる状態をしっかりと掴んで実践しようとする品質保証体制なのです。



## SHIZUKI TECHNAVI

高調波からシステムや機器を守る

### 「電気の質」を高める装置として 注目を集める「アクティブフィルタ」

最近よく耳にする「電気の質」という言葉。この「電気の質」が良いというのは、「1.周波数が一定であること」「2.電圧が一定であること」

「3.高調波(ノイズ)の含有が少ないこと」を指します。

中でも高調波に関しては「高調波抑制対策技術指針(JEAG9702)」が出されており、高圧や特別高圧で電気を受電しているお客様は常に気を配らなければなりません。そんな時に役立つのがシツキの「アクティブフィルタ」。

2009年に開発した機器組込型の小容量タイプはさらに需要が高まっており、生産している西宮工場もフル稼働で対応しています。

#### もしも高調波が含まれていると

電気の中に高調波が含まれる、つまり質の悪い電気を使っていると、機器が性能を十分に発揮できなったり、発熱や異音を発したり、最悪の場合は故障してしまいます。

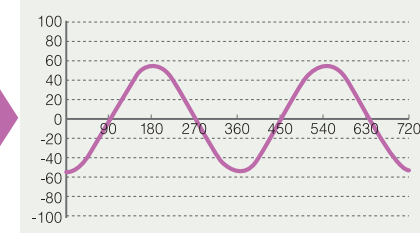
#### 対策前



#### 「アクティブフィルタ」の仕組みについて

その原理は、発生した高調波に対して、「逆」の補償電流を流すことにより、その高調波を打ち消すというもの。これにより、乱れた電気の波形が滑らかに変わります。つまり「アクティブ」という名の通り、自ら働きかける「能動型」のフィルタということです。

#### 対策後



なるほど  
シツキの  
技術力!

周波数が  
一定

良質の  
電気とは

電圧が  
一定

ノイズが  
少ない

#### シツキのアクティブフィルタ



アクティブフィルタ



小容量  
アクティブフィルタ



V-Active



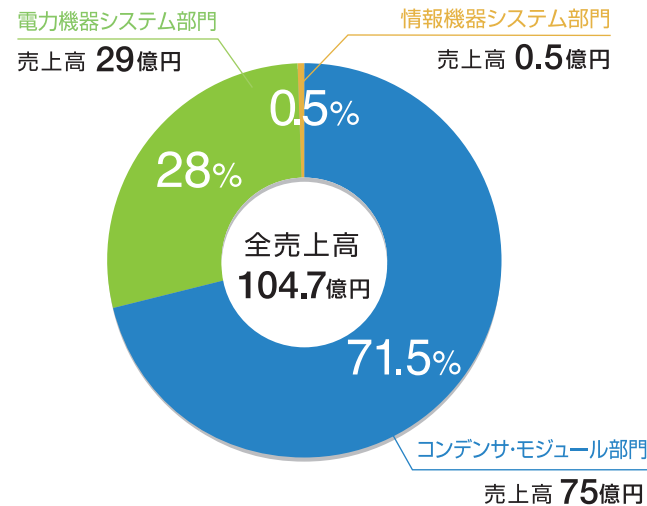
V-Active mini

## 事業概要と展望

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、今年3月11日に発生した東日本大震災を契機とした電力不足や放射性物質への不安感が広がるなか、欧州諸国の経済危機の連鎖や米国の債務問題の深刻化により、世界経済減速の影響を受けつつあります。また、このような状況の中で著しく円高が進行し戦後最高値を更新するなど、今後の景気動向は不透明感を増すこととなりました。

このような経営環境のもと当社グループにおいては、前期同様、パワーエレクトロニクス用コンデンサが堅調に推移しました。今後も、新商品開発、新市場開拓を進めてまいります。株主の皆様におかれましては、ますますのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 部門別売上高比率（2011年9月）



売上高  
構成比率  
**71.5%**

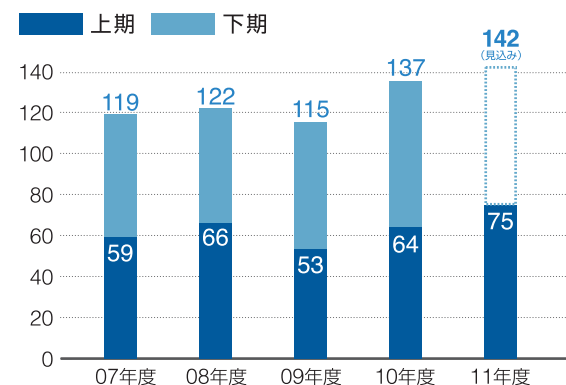
## コンデンサ・モジュール部門

震災影響により自動車産業分野で在庫調整による減産がありました。また、今年6月に完成した「R&Dセンター」において、アルミ電解コンデンサの代替商品を開発し量産を開始しました。

今後も新しい市場、新しいニーズに適合した、小型、高機能フィルムコンデンサならびに電気二重層コンデンサの開発を進めてまいります。



### コンデンサ・モジュール部門売上高 (単位:億円)



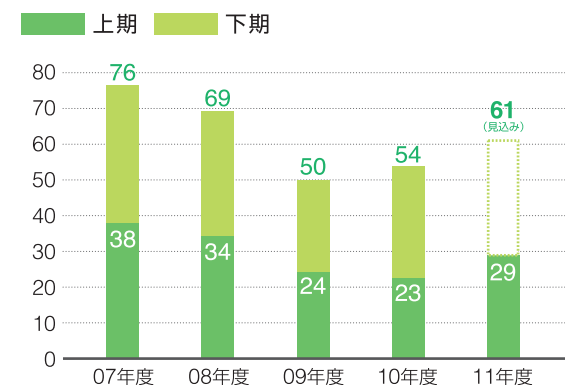
売上高  
構成比率  
**28%**

## 電力機器システム部門

設備投資の緩やかな回復により、堅調に推移しました。省エネや電気の有効利用が求められるなか、電力品質改善に「アクティブフィルタ」、省エネ対策に「高圧進相コンデンサ設備」が順調に売上を伸ばしました。また、電気の安定供給を目的として「瞬時電圧低下補償装置」の引き合いも増加しております。今後もお客様のニーズにあった商品開発を進め、商品ラインナップの拡充、受注拡大を図ってまいります。



### 電力機器システム部門売上高 (単位:億円)



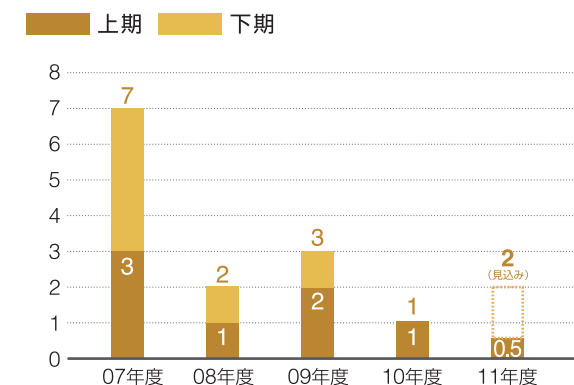
売上高  
構成比率  
**0.5%**

## 情報機器システム部門

主力商品である「バス用表示装置」および「鉄道用表示装置」が低調に推移しました。「空港用表示装置」など大型商談の端境期にあるため、売上高は前年同期比29.9%の減少となりました。「バス用表示装置」については、商品開発を積極的に進め、商品ラインナップの拡充を進めてまいります。今後も引き続き、新商品開発ならびに新たな市場にも営業活動を拡げ、受注確保を目指します。



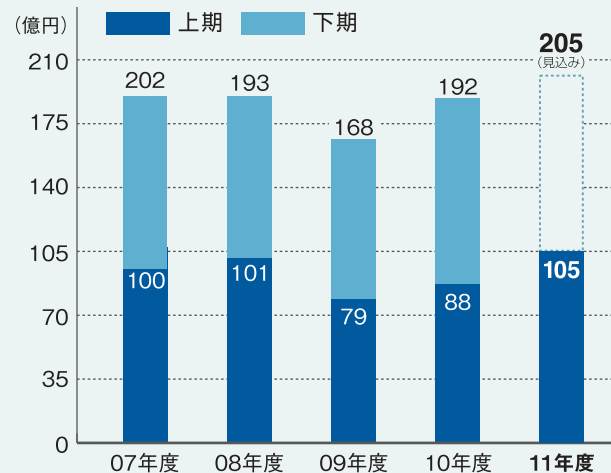
### 情報機器システム部門売上高 (単位:億円)



## 財務ハイライト(連結)

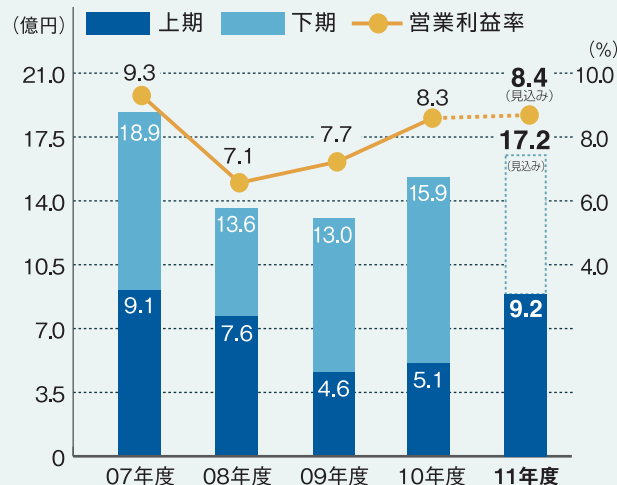
### 売上高

上期は前年同期比19%の増収、07年度を超える通期計画を見込み



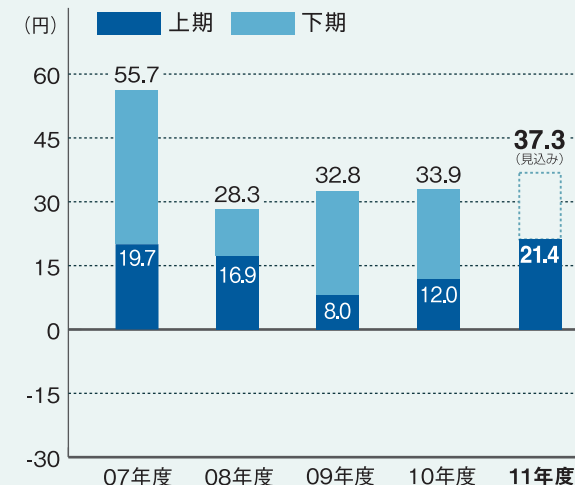
### 営業利益・営業利益率

前年同期比82%増益、堅固な営業利益水準確保



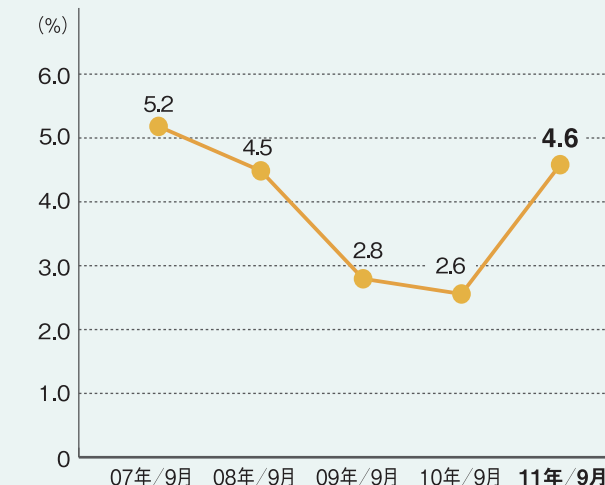
### 1株当たり利益 (EPS)

好調な利益を背景に、EPSも底固く推移



### 総資産経常利益率 (ROA)

設備投資を充実しつつ、総資産増はミニマムに対応



### POINT

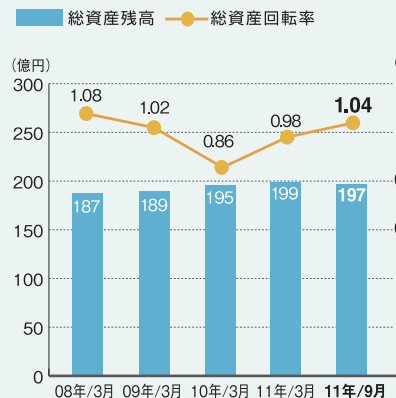
#### 上期売上は過去最高

景気減速感の顕在化により下期は慎重に見ているが、通期業績はリーマンショック以前の水準に回復の見込み

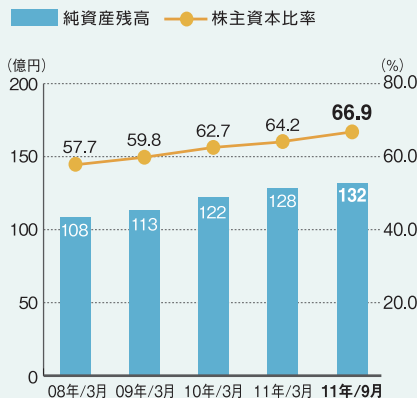
#### 収益性、健全性ともに堅調

強固な財務体質は更に進展。安定した収益確保により中間配当は50銭の増配を実施

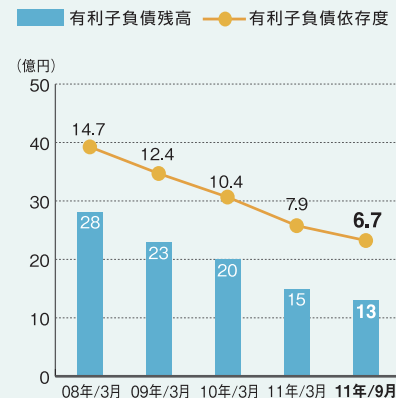
### 総資産残高・総資産回転率



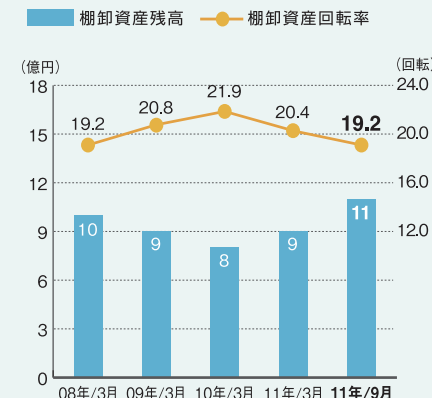
### 純資産残高・株主資本比率



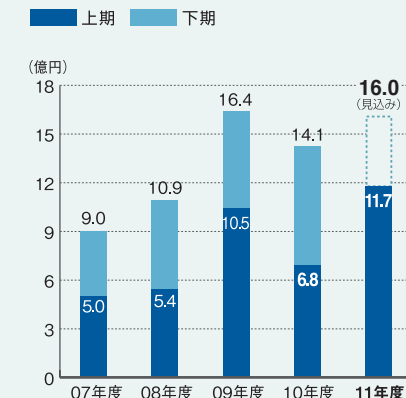
### 有利子負債残高・有利子負債依存度



### 棚卸資産残高・棚卸資産回転率



### 設備投資額



# 連結財務諸表

(注) 十万円の位を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第83期第2四半期 平成22年9月30日現在	第84期第2四半期 平成23年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	7,996	8,101
現金及び預金	3,476	2,499
受取手形・売掛金	3,356	4,105
棚卸資産	792	1,065
その他資産	372	431
貸倒引当金	△1	△0
固定資産	10,863	11,605
有形固定資産	9,598	10,341
建物及び構築物	2,616	3,139
機械装置及び運搬具	1,892	1,841
土地	4,404	4,391
建設仮勘定	413	682
その他	271	286
無形固定資産	37	61
投資その他の資産	1,227	1,202
投資有価証券	560	599
長期貸付金	11	1
その他	659	605
貸倒引当金	△4	△4
資産合計	18,859	19,706

(単位:百万円)

科目	第83期第2四半期 平成22年9月30日現在	第84期第2四半期 平成23年9月30日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	4,186	4,133
買掛金	733	773
短期借入金	1,758	1,304
未払費用	972	1,043
未払法人税等	133	323
引当金	393	466
その他	195	222
固定負債	2,383	2,350
長期借入金	—	—
退職給付引当金	934	916
その他	1,448	1,434
負債合計	6,569	6,484
<b>純資産の部</b>		
株主資本	12,143	13,095
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,308	3,308
利益剰余金	4,911	5,901
自己株式	△1,078	△1,116
その他の包括利益累計額	112	90
その他有価証券評価差額金	60	98
土地再評価差額金	859	852
為替換算調整勘定	△807	△860
少数株主持分	34	36
純資産合計	12,290	13,222
負債純資産合計	18,859	19,706

## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第83期第2四半期 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	第84期第2四半期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで
売上高	8,793	10,471
売上原価	6,245	7,348
売上総利益	2,547	3,122
販売費及び一般管理費	2,038	2,197
営業利益	508	924
営業外収益	92	89
営業外費用	100	97
経常利益	500	916
特別利益	—	51
特別損失	7	16
税金等調整前四半期純利益	493	952
法人税、住民税及び事業税	113	310
法人税等調整額	16	5
少数株主損益調整前四半期純利益	363	636
少数株主利益	4	6
四半期純利益	358	629

## 連結株主資本等変動計算書

第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

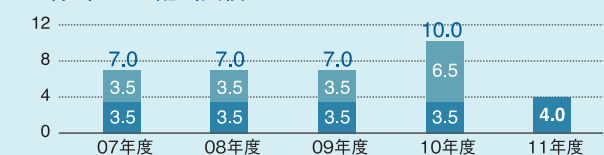
(単位:百万円)

	株主資本					その他包括 利益累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成23年3月31日残高	5,001	3,308	5,456	△1,115	12,651	105	35	12,792
第2四半期連結累計期間中の変動額								
剰余金の配当			△191		△191			△191
四半期純利益			629		629			629
自己株式の取得				△0	△0			△0
株主資本以外の項目の第2四半期 連結累計期間中の変動額(純額)			6		6	△15	0	△7
第2四半期連結累計期間中の変動額合計	—	—	445	△0	444	△15	0	429
平成23年9月30日残高	5,001	3,308	5,901	△1,116	13,095	90	36	13,222

### 当期中間配当金 1株当たり4円00銭

1. 中間配当金 1株当たり4円00銭
2. 支払対象者 平成23年9月30日最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
3. 支払開始日 平成23年11月25日(金)

### 1株当たりの配当実績



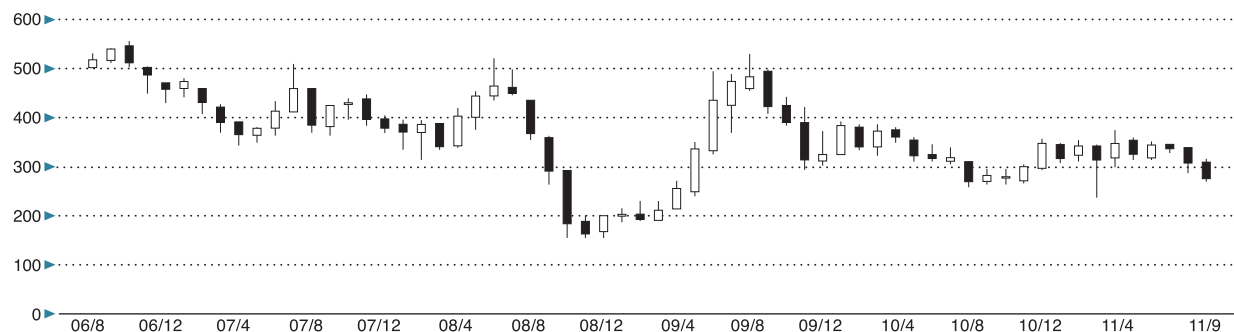
株式の状況

会社が発行する株式の総数	128,503,000株
発行済株式の総数	33,061,003株
当中間期末株主数	4,265名

大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
三菱電機株式会社	6,980	21.1
ゴールドマンサックス インターナショナル	2,157	6.5
バンクオブニューヨーク クライアントアカウント ジェイピーアールデイ アイエスジーエフイー エイシー	1,674	5.0
株式会社りそな銀行	1,299	3.9
株式会社みなと銀行	925	2.7
指月協友持株会	793	2.3
日本スタートラスト 信託銀行株式会社	650	1.9
株式会社ノーリツ	560	1.6
指月電機製作所自社株投資会	526	1.5
東京海上日動火災保険株式会社	383	1.1

株価チャート



会社概要

商号 株式会社指月電機製作所  
 英文名称 SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.  
 本店所在地 〒662-0867  
 兵庫県西宮市大社町10番45号  
 TEL:0798-74-5821  
 ホームページ <http://www.shizuki.co.jp/>  
 創業年月日 昭和14年3月10日  
 設立年月日 昭和22年9月1日  
 資本金 5,001,745,595円  
 グループ人員数 1,373名  
 主要取扱業務 ●コンデンサ及び関連機器・装置  
 ●電力機器・装置  
 ●情報機器・装置  
 の製造販売  
 営業拠点 ●東京支社  
 ●東京支店／関西支店／中部支店  
 ●札幌営業所／仙台営業所／日立営業所  
 広島営業所／福岡営業所  
 ●マレーシア連絡事務所／韓国連絡事務所

生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
九州指月株式会社(福岡県)	490,000千円	100.0
秋田指月株式会社(秋田県)	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社(岡山県)	200,000千円	100.0

販売・生産子会社

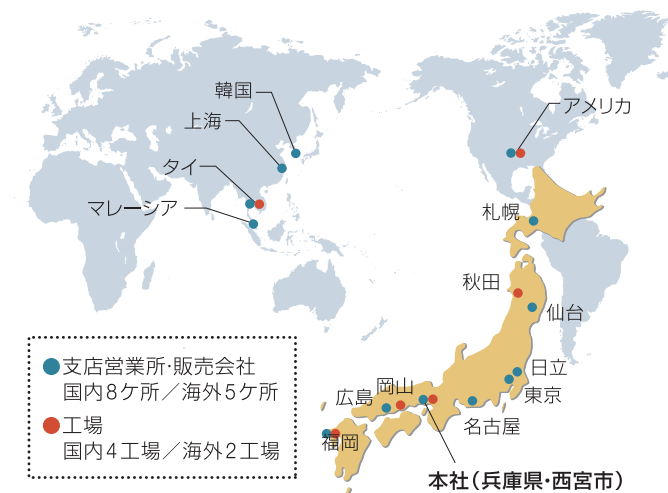
社名	資本金	出資比率(%)
アメリカンシツキ株式会社 (米国 ネブラスカ州)	17,600千米ドル	100.0
指月獅子起(上海)貿易有限公司	250千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)	33,000千バーツ	70.0

役員

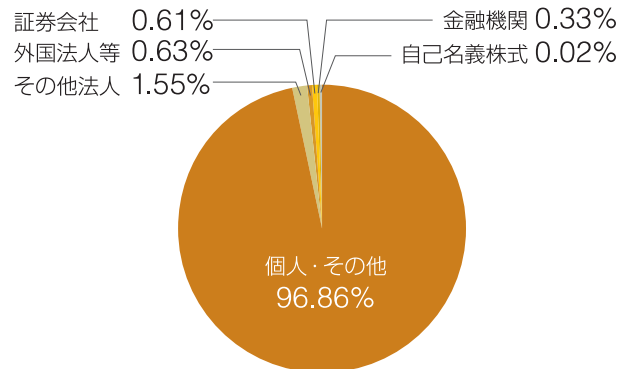
取締役	※社外取締役
取締役会会長	梶川 泰彦
取締役	木佐木 正文
取締役	川本 十七生
取締役	池田 義範※
取締役	増田 幹登※

執行役

代表執行役社長	梶川 泰彦
専務執行役	伊藤 薫
常務執行役	志方 正一
常務執行役	足達 信章
常務執行役	谷口 義裕
執行役	矢部 久博
執行役	小田 敦
執行役	山本 則彦
執行役	光谷 信雅



所有者別株主数分布状況



所有者別株式数分布状況

